

審議会等の会議の記録

会 議 の 名 称	伊勢崎市中心市街地にぎわい創出拠点整備に係る検討委員会 第3回検討委員会
開 催 日 時	令和4年8月10日(水) 午前10時3分～午前11時50分
開 催 場 所	伊勢崎市役所東館3階災害対策室
出 席 者 氏 名	(委員) 秋山委員、大前副委員長、笠原委員、加藤委員、堤委員長、 牧委員、村上委員 (事務局) 細井企画部長、新井企画部副部長、小此本事務管理課長、 土谷行政改革係長、齋藤係長代理 (オブザーバー) 伊勢崎織物協同組合 矢島事務局長
傍 聴 人 数	—
会 議 の 議 題	1 開会 2 委員長挨拶 3 協議事項 (1) 伊勢崎織物協同組合所有の土地の活用に係る検討方針に向 けての協議等について (2) その他 4 閉会
会 議 資 料 の 内 容	資料1 「伊勢崎市中心市街地にぎわい創出拠点整備に係る検討 方針(案)＜サウンディング調査事前説明資料＞」作成に 係る資料 資料2 活用案の各項目図式(文化歴史、新事業、支援、稼ぐ) 資料3 「伊勢崎市中心市街地にぎわい創出拠点整備に係る検討 方針(案)＜サウンディング調査事前説明資料＞」

会 議 に お け る 議 事 の 経 過 及 び 発 言 の 要 旨	1 開会 新井副部長 2 委員長挨拶 今回は、サウンディングのための資料（要綱）作成、準備の検討がメインとなります。どこにでもあるというのではなく、特徴的な面白いことができるように織物会館の場所でないといけないものについて「民間事業者がやるならどんなやり方ができるか?」、「公共施設を最小限で相乗効果を生み出すには、民間事業者ではどのようなやり方があるか?」と言った聞き方でサウンディングを実施しないと意味がないと考えています。 3 協議事項 (1) 伊勢崎織物協同組合所有の土地の活用に係る検討方針に向けての協議等について 【事務局説明】 資料1 「伊勢崎市中心市街地にぎわい創出拠点整備に係る検討方針（案）＜サウンディング調査事前説明資料＞」作成に係る資料 資料2 活用案の各項目図式（文化歴史、新事業、支援、稼ぐ） 資料3 「伊勢崎市中心市街地にぎわい創出拠点整備に係る検討方針（案）＜サウンディング調査事前説明資料＞」 （委員長） ・図書館機能については、現在の伊勢崎市図書館と同じ機能の施設をもう一つ設置するということではないと考えています。 ・産業振興支援機能については、事務室を置くだけではもったいないので、土日も機能し、発信していく機能を持たせた方が良く考えています。 （委員） ・追加の意見として情報発信の役割を持たせたいと考えます。伊勢崎にはローカルメディアがありません。例えば、いせさきFMを呼ぶことも案の1つであると考えます。いせさきFMの本部は、現在玉村町にあります。また、南千木町にあるスタジオについては、ハザードマップでも水害が発生する可能性がある地域と聞いているため、伊勢崎の中心市街地に呼ぶことも良いと思います。 （委員長） ・ラジオブースを設置するということは、現実的に問題ないと考えます。検討の通過点としてそのような色々なアイデアが出るということは良いことであり、委員会の意義があると思います。 （委員） ・図書館機能について解釈に誤解が無いように申しますと、「資
--	---

	料1(検討委員会での意見等)」の文中「図書館機能との連携の可能性は案として考えられる」という文言の解釈については、「現状の図書館と新施設での図書館機能との新旧施設の連携という意味で、同様の機能を持った施設を新たにもう一つ設置することでは無い」という意図である点を補足します。 ・織物産業伝承機能という点も必要であると考えます。 ・伊勢崎市は工業都市でもあるので、市内の企業ブースの設置等、商品や製品を置くだけではない新たな情報発信ブースを設けるという案も良いと考えます。 (委員) ・企業の横連携を促し、マッチングを提供できるような仕組み作りがこの場所でできたら望ましいです。そこで、「Made in いせさき」が発信出来たら良いと考えます。その企業ブースで織物の歴史から派生した現在の企業の歴史を紹介することも良いと考えます。役所の職員が常駐しなくても、県庁32階のNETSUGENスペースなどの例を参考にしたら良いと考えます。 (委員) ・企業ブースについては展示するだけでは意味が無いというのは同感です。市民向けでは市役所でも広報などを利用してたくさんの試みをやってきていると実感しています。 ・産業発信については、伊勢崎から県外へ、海外へ発信できないと意味が無いと考えています。織物産業は「かかあ天下」で発達してきた歴史的背景から、「かかあ天下」にクローズアップし、女性に焦点を向けた起業等のプロデュースをしていく企画も良いと考えます。 ・SDGsの観点からも外国人にも情報発信できる場所を提供できたら良いと考えます。 (委員) ・企業ブースについては展示ではなく、企業努力や企業が活躍している事例を発信できる場所で、企業が提案したイベントブースであれば良いと考えます。 (委員) ・企業がお金を出して活用する仕組みのフリースペースが良いと考えます。 (委員長) ・他市の事例では〇〇川でイベントを開催するといっても、市役所の様々な課が縦割りでイベントを開催していて、〇月〇日の〇〇川のイベントに参加したいと思っても、どこに申し込んで良いのか市当局でさえ把握しておらず、いろんなイベントがバラバラと開催されるといった事情もあります。自治体が縦割りで統括する部局が無いといった事例は避けたいため、「この場所に来ればイベント情報が分かる」、「この場所に来れば参加したいイベントの申し込み手順がわかる」というように情報が整理され集約して発信できる場所にすることが理想であり重要
--	--

	だと考えます。 (委員) ・起業を促すという点では産学連携という視点から、中学生・高校生と連携して起業・創業したい人を育てるという試みも伊勢崎市に住み続けて起業するような流れが必要であり価値があると考えます。 (委員) ・起業家に対する市の補助等、市としての施策や企画等の事業も今後期待があると思いますし、検討していただきたい点です。 (委員) ・この場所を学生が集う場所とし、契約した高校や大学や企業がセミナーやワークショップを行う場所とするのも良い案だと考えます。この場合、参加する学生やセミナー等を企画主催する学校、企業は法人単位又は個人単位の登録制とし料金を取る仕組みが前提となります。 (委員) ・情報発信機能ということで、伊勢崎オートレースの情報も発信したら良いし、地元のスポーツの情報を発信することも一つの案だと考えます。 (委員) ・情報発信拠点という役割として、企業サポート、産学連携といった案が出ましたが、図書機能ということで、読み聞かせ等のイベントの発信、企業や産学連携のイベントに因んだ「企画図書コーナー」なども有りだと考えます。 (委員) ・産業振興支援機能という点で「インキュベーション」といった対応が中心市街地であるこの場所では必要なのかという点には疑問があります。この点については、市役所でも商工会議所でも現状のそれぞれの場所で機能していることだと思いますがいかがでしょうか。 (委員長) ・現状の市役所等については、土日は機能していないという認識ですから、インキュベーション機能という点では土日も対応できる施設でないと意味が無いし、産学連携の事業を加えたインキュベーションの施設であれば意味があると考えます。 (委員) ・事務局資料3によると、キーワードは「創業（SOUGYOU）」ということですが、高齢者も外国人も女性も学生も誰でも情報発信できる場所という観点から、今までの委員の皆さんの話から「情報発信」をキーワードにした方がより相応しいのではないのでしょうか。
--	---

	(委員) ・「創業（SOUGYOU）」という要素も必要ではないでしょうか。さまざまな情報発信の媒体を利用して、情報発信プラットフォームの拠点とすれば良いと考えます。 ・「創業×情報」だと興味を持って見ない人が多いが、エンタメ情報もあり、スポーツ情報もあり、イベント情報もありといった情報なら興味を持って見てくれる人が増えるため、様々な情報を含めて「情報発信のプラットフォーム」とすれば良いと思います。 (委員) ・「創業」という視点だけだと、実際の現場では途中でくじけてしまう人が多く、対象が限定されてしまい、にぎわい創出といった意味で本来のにぎわいが達成できないのではないかなという点が気になっています。 ・エンタメ情報もあり、スポーツ情報もあり、イベント情報もあり、といった中に、リフォーム情報もあり、助成金の情報もあり、投資の情報もありといった求めたい情報を得られる場所、発見のある場所というのは良い案であると思いました。 (委員長) ・委員の皆さんから出た意見が、サウンディングで「チャレンジショップ」としてやっていただけますかという形で民間事業者の意見を聴けることに本来の意義があると考えています。 (委員) ・チャレンジショップという案はとても面白いです。結果的ににぎわいが創出できるという点が重要であると実感しています。 (委員長) ・今後の施設の整備方針としては、必要最小限を整備し民間事業者任せるというやり方が良いと思います。 (委員) ・人を集める場としての機能も必要であるが、にぎわいを誘発する施設が望ましいと思います。 (委員長) ・大きな商業施設ができるだけで、商店街のにぎわいが失われ潰されるという事態は避けたい。人が住むマンションの建設を誘発し、チャレンジショップ等の試みが実践できるような中心市街地にできればというのが理想的なので、サウンディングで民間の意思を上手く聞いていきたい。 (委員) ・「インキュベーションオフィス、レンタルスペース、チャレンジショップの機能を備え、その際、各スペースの利用については有償で収入を得るということを前提条件に民間にやり方を聴取するという方針が良いと思います。（以下、「方針案A」という。）
--	--

	(委員長) ・基本的には「方針案A」で良いと考えています。 (委員) ・「方針案A」で良いと思います。 (委員長) ・図書館機能としては、イベント、催し、企画展が行えることを想定し図書館のフリースペースを新施設に持ってくるイメージで考えています。読み聞かせ機能を実施することで、にぎわいの創出を促します。児童スペースに課題があるという点も現地視察で目の当たりにしたため、児童図書について新施設に持ってくるという整理もできると思います。 (委員) ・図書機能については、一般図書以外の機能を新施設に持ってくるという認識で良いでしょうか。 (委員) ・児童図書、読み聞かせ機能について持ってくるという整理で、産学連携による次世代育成という役割も促せます。 (委員) ・学習室も移設することで対応できると思います。学生は、自身の本を持参することが多く、学習室で本を借りるということは少ないと思います。 (委員) ・「インキュベーション×情報発信」で雇用の創出にも繋がります。新施設の入口スペースは情報発信機能ということが理想です。 (委員) ・現在の伊勢崎織物会館の建物については、取り壊しが前提ですか？ (委員長) ・現施設の利用も含めてサウンディングで意見聴取するということが可能だと考えていますが、理想的に実現する場合、運用フェーズを担う組織も民間であることが望ましいです。図書館機能は公共が整備し、指定の機能を備えた民間施設を準備することといったサウンディングでの意見聴取も可能と考えます。 (委員) ・伊勢崎銘仙に関係するキャラクターを作って、施設のイメージキャラクターにしたらと思います。 (委員長) ・運用段階では、地元でやる気のある事業者を母体にして運用組
--	--

織を作り運用することが望ましいです。民間が運用方法を考えてもらうようなサウンディングにしたい。

(委員)

- ・他市の事例を参考に運用組織の立ち上げについて市側で検討していただきたいです。また、地域おこし協力隊が活躍する場として、組織運営を任せることも市として検討していただきたいです。

(委員)

- ・民間ということは、これから創業する人という定義でよいでしょうか。他市事例の話が出ましたが、伊勢崎市は製造業の方が多いため、他市事例が流通販売業の事業者の方が成功している事例に必ずしも当てはまらないという場合もあると思います。

(委員長)

- ・サウンディングについては、参加しやすい条件を設置していく必要がある。
- ・最初の運営は指定管理で委託するのか、民間で運営していくのか、サウンディング後に手法を決めていけばよいのではないのでしょうか。

(委員)

- ・イベント企画といった点では、近隣施設の赤石楽舎をもっと活用すべきであると思います。通りからの見通しも良く活用しない手はありません。

(委員)

- ・赤石楽舎の今後の利用方針について担当課の意見を次回教えて欲しいです。

【事務局】

- ・担当課の方針については、次回確認して報告いたします。

(2) その他

(委員長)

- ・まちなか発見ワークショップ事業「まちなか宝さがし」（事務局：産業経済部商工労働課）概要紹介

【事務局】

- ・第4回検討委員会の開催について

4 閉会 新井副部長

(終了：午前11時50分)